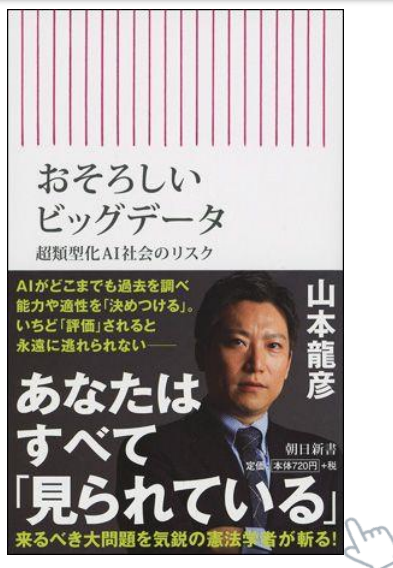


ビッグデータやAIを正しく恐れよう



『おそろしいビッグデータ 超類型化AI社会のリスク／山本龍彦／朝日新聞出版
2017年』

著者紹介	慶應義塾大学法科大学院教授
本の内容	「特定の年齢層に含まれる女性で、無香料性のスキンローション、特定のサプリメント、大きめのバッグなどの商品を同時期に購入した者は、妊娠している可能性が高い」(20頁)。ありとあらゆる人や物から収集された大量のデータ(ビッグデータ)をAIに解析させた結果、このようなパターンが浮かび上がってきたとしよう。AIの解析結果に示されるこの種のパターンを、あなたに関する様々なデータに当てはめれば、あなたの嗜好や行動、人となりは容易に予測することができる。そして、この種の予測をもとにすれば、様々な事業者や政府はあなたにピッタリな情報やサービスを提供することが可能になる。 本書著者は、このような形でのビッグデータとAIの連携が個人の権利利益を損ない社会全体を蝕むおそれがあることを、克明に描き出している。と同時に、本書著者は、「ビッグデータやAIの『裏の顔』を知ることで始めて、その適切な利活用が可能となる」と説き(19頁)、憲法に具体化された様々な価値理念を基準にした「節度あるビッグデータの利活用を実現する」(30頁)ための方途を示している。
こんな人に読んでほしい	ビッグデータとAIの利活用に対する適切な規律を模索したい方
おすすめコメント	「ビッグデータはおそろしい。しかしこうも言っておきたい。ビッグデータは素晴らしい」(28頁)という本書著者の言葉に共感する方には必読の書です。

配置場所は[こちら](#)↓

